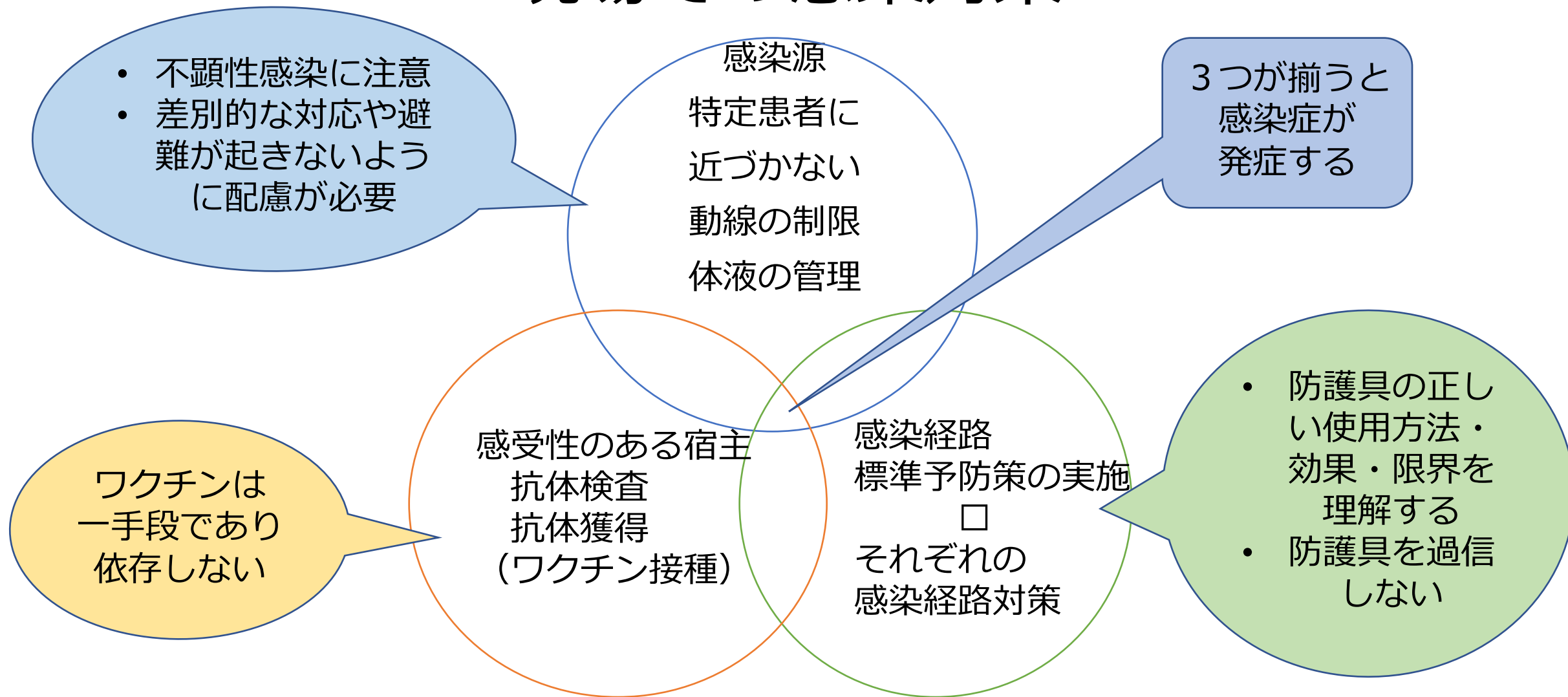


感染成立の3要素と 現場での感染対策



感染防止策の3原則

1. 感染経路を遮断すること
2. 感染性宿主への対応を迅速に実施し、感染の連鎖を断ち切る
3. 標準予防策（スタンダードプロコーション：SP）
＋感染経路別対策

感染症の起こる要因

- 人の移動（外部からの病原体流入、風土病など）
- 人口の密集（居住空間の狭さ）
- 生活環境の変化（寒冷環境、屋外生活など）
- 衛生状態の悪化（土壌汚染、水系汚染など）
- 食糧・水の汚染（飲料水の質・量の低下、食糧確保など）
- 医療を受ける機会の減少（施設の機能低下など）
- 宿主の背景（免疫状態、栄養状態など）
- 災害の種類
- 国の状況（政治・経済・医療体制など）

被災地における 3 大死因

感染症	要因	経路	対策
下痢症	衛生環境の悪化	経口感染	安全な飲料水と食糧の供給
	飲料水や食糧の汚染		トイレ・ゴミの処理
			生活用水の排水設備整備
急性呼吸器 感染症	人の密集	飛沫感染	毛布や衣料の供給
	換気不足		定期的な換気
	毛布や衣料不足		仮設住宅の供給
	寒冷		
麻疹	人口密集	空気感染	予防接種
			隔離

まず初めにすること（災害直後・避難所設営直後）

- CWAPが生命の危機にさらされないようにすること

（C:子ども、W:女性とくに妊産婦、A:高齢者、P:患者・障害者）

被災者全体

- ①身体的に休息できて体力の賞もを最小限にすること
- ②避難所生活に起因するストレスをできる限り低減すること
- ③適切な食事のよって栄養摂取すること
- ④身体を冷やさず代謝を活性化して免疫反応を増進させる

感染症に対する予防策

- 安全な水と食糧の提供（飲料、炊事、洗濯、風呂など）
- 衛生環境の整備（トイレ、ゴミ処理、排水など）
- 医療サービスの提供
- 予防接種の実施（インフルエンザ、MRワクチン、DPTワクチンなど）
- 媒介動物のコントロール（蚊、ネズミ、虫類）
- 被災者への衛生教育（手洗い、マスク、手指消毒、隔離措置、環境消毒など）
- サーベイランスシステムの確立

東日本大震災時の実例

＜事例 1＞

下痢症が多発（20人以上）していた避難所では、トイレ・手洗い環境の不備が原因と考えられ、給水車の巡回、トイレ掃除の徹底、簡易トイレの設置の実現で下痢症がなくなった。

<事例 2>

津波被害を受けた避難所では、呼吸器感染症が多発（200人以上）していた。

津波による土壌汚染があり、粉塵が舞い上がる環境にあった。

N95マスクの優先配布・避難所内土足禁止・清掃などを実施し、呼吸器感染症の発生は激減（数人）した。

災害時の一般避難所における 災害時要援護者への支援（高齢者）

生活機能を維持するための支援

[介護のしやすさを考えて避難所内の生活場所を決める]

- ・ 要介護者を救護スペースの近くに集めた
- ・ 一方で、介護者が疲弊したという報告もあり

移動動作

[移動手段を確保する]

[ベッドの確保や代わりになるものを探す]

- ・ 車椅子が不足
- ・ 床などの低い位置からの起居動作の介助困難

排泄

[高齢者が使用できるトイレを確保する]

生活しやすい環境のために

[地域共助力を活用する]

- 家族、親戚、近所の人たちでグループを作ると、介護を協力し合えたり、食糧の配給に並ばなくて済む、情報の伝達が早く済むなどのメリットが生まれた。
- 家族のいない要支援者は、民生委員のいるグループに入ること
で、遠方の家族との連絡が取れやすくななどのメリットが生まれた。